

課題対応取組み一覧表(公表分)

【総合相談窓口(ランチ)】

区名	ランチ名	活動テーマ
北区	大淀	地域福祉・地域包括ケア推進: 支え合い 学び合い 育て合い ~ 認知症になっても、どこか不自由でも~
	梅田東	自宅での生活に支援が必要な方に早期からの介入により自立した生活の継続維持を行う
	豊崎	地域包括ケアシステムの推進と地域との協働支援体制の確立
港	港南	総合相談窓口と地域関係者との顔の見える関係づくり・連携支援体制の構築
	築港	認知症になっても住み慣れた環境で安心して暮らし続けられる地域作り
浪速区	日本橋	~ 高齢者が暮らしやすいまちづくりとネットワークの構築 ~ 高齢者の閉じこもり予防のため、地域のふれあい開発に取り組む
	難波	総合相談窓口の周知・啓発の拡充
東淀川区	瑞光ランチ	認知症になっても住み慣れた地域での生活が継続できるように、病気に対する理解を広めることと同時に地域住民の意識を把握することで、今後の適切な支援へつなげるためのネットワークを構築する。
生野区	大池	・地域の方々と協力し、認知症になっても住みやすい街づくりを目指す。 ・ランチの周知活動と相談しやすい環境作り。
	生野東	地域との連携・協働のためのネットワークの構築、地域の実態把握と相談窓口の周知活動
	田島	地域行事に参加していない高齢者への戸別訪問活動
	新生野	地域において関心の高い認知症予防や認知症になっても住民で見守れる地域作りについて情報提供を実施し、早期発見・早期対応が出来るように、連絡相談機能を構築する。
	新巽	平成29年4月からの新設ランチで、地域の行事に参加し、新巽ランチの周知活動を行う。地域住民と顔の見える関係づくりの構築
阿倍野区	昭和	顔の見える関係作り(長池地域におけるネットワーク構築に向けて)
	阿倍野	地域団体と相談機関の協働を増やし、地域における見守り支援体制づくりの活性化へつなげる
住之江区	新北島	出前相談
東住吉区	矢田東	地域の身近な相談窓口として認知度をあげる。積極的に地域に出る事で住民と関わる機会を増やし、早期相談に繋がるネットワークを構築する。
	白鷺	地域の身近な相談窓口として、地域住民や関係者にランチを周知し、早期相談や見守りのネットワークをつくる。
	矢田西	地域の行事や会に参画し、矢田西地域の住民へランチを知っていただくとともに、相談しやすい関係作りを目指す。
平野区	喜連東	元気な時から顔見知りや声のかけ合える住民間での関係づくり、ネットワークの構築
西成	天下茶屋	「いきいき百歳体操」「ふれあい喫茶」を大切に、地域の方々と顔の見える関係作りをしていく
	山王	百歳体操の場の繋がりをいかして、地域住民によるゆるやかな見守り活動へ
	成南	高齢者の居場所作り
	梅南・橘	つながりづくり (地域住民 地域関係者と専門職 地域住民と専門職)
	あいりん	低年金受給者等への早期支援を目的とした、あいりん地域のホテルや簡易宿泊所へのアプローチ

平成 29 年度 大淀 総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 30 年 6 月 8 日

活動テーマ	地域福祉・地域包括ケア推進：支え合い 学び合い 育て合い ～ 認知症なくても、どこか不自由でも～
地域ケア会議から見えてきた課題	会議、総合相談より「認知症」「独居・家族が遠方」「金銭管理」「家族支援」というキーワードが並び、会議では1ケース、以外は『認知症』に付随する課題となっている。これらのケースから、早期に発見して窓口につながる。また、制度に繋がっていても、繋がっていても、地域の方々や支援者間の見守りが必要なケースが増えてきていることから、認知症のこと、対応方法などを医療機関、専門職、地域住民が学び実際に具体的な課題を共有することが必要であった。そこには「個人情報」の壁」という課題もあった。
対象	認知症サポーターの方で民生委員、カフェコンパレのスタッフを中心した中津住民 大淀東、中津住民（認知症に関わる方やそのスタッフ） 大淀西住民 職業体験中学生
地域特性	中津は、北区の中でも高齢化率が高い地域、大型マンション、市営住宅等では、重篤化してから、相談があるという課題がある。路地は狭く、消防車も入らない単層の住居が密集しているところもあり、火事、防災に関しては、関心が高く、数十年前のマンション爆発事故もひとつの背景となっている。大阪駅前二期工事が始まり、今後、大淀ランチの圏域は、大きく変化していくことが予測される。もともとの住民と、高層マンションに転入された新住民との双方のつながりが今後の課題となる。その中には、高齢者が転入も予測され、どのように地域とつながるのかといった問題も起きうる。また、主な公共機関への交通の便が悪く地域に向けてのフォローが必要。各圏域共通して、多くの役割を担う人材の後継者づくりも課題である。
活動目標	（サポーター間、サポーター、地域、専門職、専門職と医療関係者がつながる） 認知症サポーターが重荷を感じるのではなく自発的にやろうと思っていることが少しでもスムーズにでき、サポーター、地域、専門職そしてまち全体が認知症にやさしいみんながつながる中津を目指す。 認知症の方の拠り所を専門職としての役割を担う。 認知症サポーターをさらに増やす。 《活動としては、26年度から取り組んでいる。新オレンジプラン環境活動でもあり、また、地域ケア会議からの課題である「認知症」をツールにまちづくりや包括ケアを視野に入れた活動となることを目指していた。28、29年度は、圏域3地域の地域活動策定委員会に参画できたことから、その中で課題、計画に寄り添う活動を目指す。》
活動内容 (具体的な取り組み)	主催) 大淀ランチ 共催) 中津社会福祉協議会 協力) 民生委員・中津女性会・北区社会福祉協議会・北区大淀地域包括支援センター・淳風おおさか 内容) テーマ)みんな(地域住民・認知症サポーターと医療・介護・福祉専門職)が～地域を結ぶ～つながる中津～ 1部 「認知症のお話」講師 かしいクリニック柏井先生 2部 意見交換Q&A 参加者等の詳細 ; アンケート 事前アンケートちらし等の別紙資料参照 大淀東では、ほっとひと息ひだまりカフェにスタッフとして参画(毎月第二金曜日)し、専門職として関わることができた。中津のカフェコンパレへの参加は土曜日で、基本ランチは休日となるため、毎回の参加は困難であるが、必要に応じて参加をしている。カフェへの参画、参加することで、認知症の方や家族、関係機関をつなぐこと、居場所、いきがづくりを目的としている。大淀西では、小地域活動計画策定委員会高齢者・障がい者班で、振り返りにも参画をさせていただいた経緯から地域が主催の認知症サポーター養成講座開催を進める協力機関として、調整段階である。資料A参照 職業体験中の中学生と地域福祉コーディネーターへ認知症サポーター養成講座を受講いただくことができた。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	認知症サポーターへのさらなるフォローアップができ、顔も見える意見交換の場となった。専門職、医療機関、地域住民(サポーター)が、一体感を持つことができ、具体的に課題が見えた。まちづくりを視野に入れ課題をまとめられる段階となり、その対応のための会議を次年度に向けて開催していくことへの土台ができた。どこにも繋がらない方がカフェには、参加できたケースもある。地域のDrに、講演を依頼し協力が得られたこと、中津済生会 HP関係者数名が、参加されたことで、より力強く幅の広い関係ができた。そして、大淀西は、30年度に地域力を最大限に活かし、目標を達成する準備の最中となっている。また、これまでの活動を通して、大淀東では、母体が福祉避難所として一緒に防災訓練に関わり、模擬で避難をするという取り組みへの橋渡しと協働ができた。
今後の課題	「認知症」に付随した周辺症状をお持ちの方、または精神疾患の方などが、地域住民が困惑する行為を兼ねることは、結果的に住みづらくなってしまいますので、地域住民がこれまで、蓄積してきたゆるやかな見守り体制の中に専門職が、その特性を活かして介入し協働していく体制を個別ケースごとに実践を積み重ねていくこと。また、環境(住まい)や、金銭管理、判断力に課題を持つ方の意思決定が本人の真意に可能な限り近づけるようなサポートができるよう早期に各機関が問題意識を持ち目的に近いところで調整できるようチーム支援としての実践力を高める必要がある。

区地域包括支援センター運営協議会開催日(平成30年8月2日)

専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性(拡張性) 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント(区地域包括支援センター運営協議会からの意見)	認知症支援に関して継続的に取組み、認知症サポーターフォローアップ交流会を開催することで、顔の見える交流会を通じて認知症サポーター(地域住民)と専門職、医療機関との一体感醸成に寄与したことは評価できる。今後も地域の課題を抽出し整理して、これまでの取組の実績を生かし、新たな地域での取組に広げてほしい。

平成 29 年度 梅田東 総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 30 年 6 月 14 日

活動テーマ	・自宅での生活に支援が必要な方に早期からの介入により自立した生活の継続維持を行う
地域ケア会議から 見えてきた課題	・金銭管理が問題で生活に支障でているケースが多い。早期に医療や介護の必要な方が重症化して からサービスを受け入れられる傾向にある ・地域の方が早期に相談できるよう出張相談や広報活動を強化する必要がある
対象	・梅田東地域 済美地域 北天満地域 曽根崎地域 堂島地域 中之島地域住民及び関係者
地域特性	・担当圏域が梅田周辺で高層マンション、商業エリア、古い町並みが混在し多種多様な方がいる。 特に高層マンションに転入者が多く人口の増加傾向にある。そのため、セキュリティの問題から地 域関係者が介入できない状況にある ・圏域内には主要病院が集中し施設が多数ある
活動目標	・高齢者自身の健康、予防意識を高める ・地域包括ケアシステムの構築に向け、地域、企業、医療、介護が連携の取れた関係を確立しハイ リスク高齢者の早期発見、早期介入に繋げる
活動内容 (具体的取組み)	1：地域住民の実態把握と意識づけ、身体変化の早期発見と対応（継続活動） 実施地域：梅田東 済美 北天満 1) 脳活性化プログラムの実施、 2) 参加希望者には体操前に血圧測定を行い体調の聞き取りを行い自己管理能力を高める 2：地域住民の健康意識を高める 1) 梅田東地域 10月7日(土) 「福祉用具と健康フェア」 参加者 92名 福祉用具の展示・試乗 血管年齢・骨密度・脚バランス測定 2) 堂島・中之島地域 平成30年2月24日「薬剤師が話す薬の話」 参加者 17名 講師 済生会中津病院薬剤師 萱野勇一郎先生 3) 済美地域 平成29年5月31日「明日も元気！何食べよう？」～いつもの食事にプラスす るもの 講師 喜久寿苑管理栄養士 阿部 茉莉先生 平成29年11月29日「楽々ながら体操」～認知症予防と運動～ 参加者 37名 講師 健康運動指導士 河野千恵子先生 平成30年1月31日「薬剤師が話す薬の話」 参加者 24名 講師 済生会中津病院薬剤師 萱野勇一郎先生 3：商業エリアへの取組み及びランチ周知 認知症サポーター養成講座開催 平成29年7月14日 グランフロント大阪内パナソニックセ ンター 堂島・中之島地域出張相談開催 高層マンションへのパンフレットの設置 4：地域・医療・介護との顔の見える関係づくり 1)平成29年12月21日 病院看護師、MSWと在宅ケアマネジャーとのグループワーク開催 64 名参加 2)済美地域、北天満地域 堂島中之島地域の民生委員会への定期参加
成果 (根拠となる資料等 があれば添付するこ と)	・地域高齢者への予防講演の開催や脳活性化プログラムの実施により地域住民の健康意識が向上し た地域では参加者が他者を誘って来るようになってきている。また、講演のテーマの希望もされるよ うになっている ・民生委員会に参加し情報を共有することで民生委員からの相談が2件から11件に増加している。 また高層マンションへの包括・ランチのパンフレット設置及び定期的な訪問により管理事業所の 介護サービス等への理解が深まり居室の鍵の問題にも意見交換できるようになっている ・昨年からの開催した病院看護師と在宅ケアマネジャーとのワーキングは大変好評で60名定員の所 他病院や包括、医療・介護CDも参加次年度の開催も決定している
今後の課題	・健康意識が高まった地域では百歳体操等の地域開催の教室へ積極的に参加するが、他地域では衰 退している所もある ・地域の民生委員会が開催されていない地域との情報共有

区地域包括支援センター運営協議会開催日（平成30年8月2日）

専門性等の該当	地域性	継続性	浸透性（拡張性）	専門性	独自性
今後の取組み継続に 向けてのコメント (区地域包括支援セ ンター運営協議会か らの意見)	開催手法を変えながら継続実施したことによる講座への参加者の増加や定期的な民生委員会への 参加により相談件数の増加がみられる。また、医療（病院看護師）と介護（ケアマネジャー）と のグループワークを開催した新たな取組は、お互いの役割を知り退院時の連携の強化につながり評 価できる。今後も高層マンション、商業エリア、古い町並みが混在する地域特性を踏まえ、関係機 関との連携の強化を図り早期からの支援ができるよう取組を継続してほしい。				

平成 29 年度 豊崎地域 総合相談窓口（ブランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 30 年 4 月 7 日

活動テーマ	地域包括ケアシステムの推進と地域との協働支援体制の確立
地域ケア会議から見えてきた課題	・地域住民が要支援者の初動期における発見、支援の役割を担っていることも多く、要支援者と関わる機会の多い地域住民が、困った時にすぐに相談窓口で相談することが出来る関係づくりを行っていく必要がある。
対象	本庄、豊崎の地域住民
地域特性	・本庄・豊崎地域においては流動人口の増加による地域ネットワークの分散が見られる。 ・両地域共に地域関係者による福祉活動に対する積極的に取り組みがある一方、そもそも地域ネットワークから切り離されて生活している層が存在している。
活動目標	・地域住民が総合相談窓口を理解し活用できるようにする。 ・地域における高齢者、及び認知症の方の見守り活動の推進。
活動内容 (具体的取組み)	<ul style="list-style-type: none"> ・豊崎地域における小地域ケア会議の開催 開催時期 平成 29 年 6 月、10 月、平成 30 年 2 月 ・豊崎地域認知症者徘徊模擬訓練 開催時期 平成 29 年 10 月 14 日 ・本庄地域 UR 住宅における見守り活動の創設共催 運営会議 毎月第一日曜日 活動日 平成 29 年 9 月 16 日 隔月開催予定 ・本庄地域住民向け家族介護支援事業講演会実施 活動日 平成 30 年 3 月 28 日
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<ul style="list-style-type: none"> ・小地域ケア会議を通して、地域関係者を含む高齢者支援ネットワークが構築された。 ・徘徊模擬訓練を実施した結果、地域住民に認知症の方を支援する意識と支援機関の周知に繋ぐことが出来た。 ・UR 住宅(賃貸)の高齢者を含む要支援者の孤立化防止の為に、地域住民が主体となって見守り活動を創設する事に関して、高齢者支援機関として協働した。結果、地域関係者への総合相談窓口の周知、支援上の連携に繋がった。 ・包括支援センターと連携して行った講演会を通して、地域住民に高齢者介護の情報提供を行うと共に、包括支援センター、総合相談窓口の周知に繋がった。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・小地域ケア会議を通じた地域課題の抽出と課題解決の活動へと繋げる会議内容の見直し。 ・小地域ケア会議の新規創設による包括支援システムの展開(本庄)。 ・見守り活動に対してのマンション管理会社側の理解、協力を得にくい状況の解決。 ・地域診断の更新、継続と包括支援センターと連携する形での課題対応の為の取組みの実施。

区地域包括支援センター運営協議会開催日（平成 30 年 8 月 2 日）

専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	継続した地域との認知症の方の見守りから、更に地域と協働で小学生を対象とした徘徊訓練の実施へ活動を展開できている。また、UR 住宅における見守り活動の取組や小地域ケア会議を通して地域住民に相談窓口の周知や連携強化に向けて取り組めたことは評価できる。今後も地域と共に定着した取り組みを続けネットワークを強化し要支援者の早期支援につながるよう活動を継続してほしい。

平成 29 年度 日本橋地域 総合相談窓口（ブランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 30 年 4 月 9 日

活動テーマ	～ 高齢者が暮らしやすいまちづくりとネットワークの構築～ 高齢者の閉じこもり予防のため、地域のふれあい開発に取り組む
地域ケア会議から 見えてきた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域とつながれない認知症の独居高齢者や高齢者世帯が多い。 ・ 認知症の進行により地域での関係が悪化し、認知症の人を孤立させている。 ・ 要介護者の発見と見守り、担い手の発掘のために、新たなつながりの場が必要。
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日東地域 ・ 恵美・新世界地域
地域特性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日東地域は、市営住宅が多くあり昔からの住民や親せき関係の入居が多い。昔からの馴染み関係が残っており近隣付き合いはあるが、高齢化が進み認知症高齢者が孤立傾向にある。 ・ 恵美・新世界地域は、流入者が生活しやすいワンルームマンションが多く、地域とのつながりが希薄なため、生活状況の情報収集ができにくい。 ・ 近年、日東地域、恵美・新世界地域とも旅行者や観光客が増え、高齢者にとっては過ごしにくくなってきている。
活動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域に馴染めない高齢者をふれあい喫茶や食事サービス、いきいき百歳体操等に誘い、地域交流を図る 2. 地域のサロン等に積極的に参加し、住民の生きがい等のニーズを把握して地域の担い手を募る 3. 新たなつながりの場「高齢者の居場所」の開発に取り組む
活動内容 (具体的取組み)	<ol style="list-style-type: none"> 1. の活動として 独居高齢者や認知症の高齢者をふれあい喫茶や食事サービス、カレーサロン等につなげ、地域で見守り・気にかけて合う関係を築けた。 2. の活動として 地域のサロン等でボランティアの方々と話しを重ねて下記の事が見えてきた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 担い手の高齢化があり、やりたい人を募ることが難しくなっている。 ・ 一人の人が幾つもの担い手にならざるを得ない状況になっている。 3. の活動として <ul style="list-style-type: none"> ・ 以前より、恵美地域で計画を立てていたふれあい喫茶「ほほえみ」が 29 年 8 月 1 日に開設され大勢の住民が参加、住民の集える場所が 1 ヶ所増えている。 ・ 日本橋住宅 2 号棟百歳体操が毎水曜日に開催されていたが、12 月より月曜日が追加され週 2 回の開催になった。百歳体操の後、カラオケコーナーを設けて高齢者の憩いの場になっている
成果 (根拠となる資料等があれば 添付すること)	<p>上記の取組みにより見えてきたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のサロン等で人と会話することを楽しみにしている高齢者が大勢おられ、それがボランティアのやりがいにつながり相乗効果を生み出している。 ・ 何かボランティアに参加したいが、一歩が踏みだせない人がいることが分かった。 ・ 行事の手伝いに参加しなければと、心の重荷を感じている人がいることが分かった。
今後の課題	<p>課題対応取組みの結果、下記の課題が表出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化が進み元気な高齢者が増え、担い手になりたい人へどのように発信すればよいのか。 ・ 社会参加のための地域活動が、担い手の居場所づくりになるようにするには何が大切か。 ・ 担い手に参加することへの重圧感を、どのようにすれば軽減できるのか。

区地域包括支援センター運営協議会開催日（平成 30 年 7 月 11 日）

専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	独居高齢者や認知症の高齢者を地域のふれあい喫茶や百歳体操など地域に繋ぐことが来ている。また新たにふれあい喫茶「ほほえみ」が開設され、百歳体操の回数が増えて高齢者が集う場が多くなってきている。まだまだ地域と繋がれない高齢者がいると思われるので、引き続き地域に出向き関係機関と協働して欲しい。

平成 29 年度 難波地域総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書報告書作成

報告作成日：平成 30 年 4 月 19 日

活動テーマ	総合相談窓口の周知・啓発の拡充
地域ケア会議から 見えてきた課題	地域とのつながりが希薄な高齢者に対して、発見が遅くなり発見時には重篤化している場合が多い。
対象	立葉・幸町・塩草地域住民
地域特性	長年住んでいる高齢者は地域とのつながりが強いが、その反面、地域とのつながりが希薄な高齢者もあり、独居者の高齢化もすすんでいる。
活動目標	地域包括支援センター・ランチの周知を行い、相談窓口があることを広め、地域とのつながりが希薄な高齢者の早期発見や些細なことでも相談してもらえるような関係づくりを行う。
活動内容 (具体的取組み)	ランチのチラシを作成し、地域住民、ボランティア、地域役員、民生委員等に対して、地域活動等にて配布を何度も行うことで、相談窓口担当者も地域活動へ参加していることを意識づけていただき、介護保険制度や認知症に関する疑問や、困りごとなど些細なことでも相談してもらえるような関係づくりを行った。 地域活動へ参加していない地域住民等への周知として、地域のスーパーマーケット等にもチラシを設置させていただき、周知を図った。 チラシには事務所の場所や連絡先を記載し、また相談内容の例を記載し、身近な相談窓口であることを周知している。 また、チラシの裏面には「認知症によるもの忘れと加齢によるもの忘れの違い」「認知症とは」「成年後見制度について」「ロコモティブシンドロームについて」「口腔機能維持の体操」「虐待について」等毎回内容を変え、認知症予防や権利擁護についての説明を記載し、相談対応していることの周知を行ったり、間違いさがし等の脳トレも記載することで認知症予防への興味を持っていただけるような取組みを行った。
成果 (根拠となる資料等があれば 添付すること)	チラシを配布することで、些細な疑問や困りごとでも話かけてくださることが多くなり、認知症予防に関して興味を持ってもらえることも増え、友人についての相談等も増えている。 また、チラシ配布時に「今回は何書いているの?」と興味を持ってきていたり、脳トレを記載したことで、チラシの配布を楽しみにしてくれている地域住民の方もおられ、身近な相談窓口としての周知につながっていると思われる。 初回相談時、「チラシを見て電話した」と相談してくれる方も増え、ある程度の成果はあると思われる。
今後の課題	地域活動の参加者は地域とつながっているが、参加されていない方は地域とのつながりが希薄と考えられる。地域のスーパーマーケット等にもチラシを設置していたが、まだまだ周知不足であると思われる。今後も、包括支援センターと協働しながら、地域にあったアウトリーチ方法で周知を図っていきたい。

区地域包括支援センター運営協議会開催日（平成 30 年 7 月 11 日）

専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	地域活動時にチラシ配布を行うことで、家族だけでなく友人からも「チラシを見た」との相談も見られるようになってきている。少しずつ周知されてきていると思われるが、新しい大型スーパーも出来てきており、今後も活動を継続し、地元住民に浸透して欲しい。

平成 29 年度 瑞光地域 総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成30年 6月 8日

活動テーマ	認知症になっても住み慣れた地域での生活が継続できるように、病気に対する理解を広めることと同時に地域住民の意識を把握することで、今後の適切な支援へつなげるためのネットワークを構築する。
地域ケア会議から見えてきた課題	個別ケース会議では認知症高齢者のケースが開催数の 80%を超えており、介護する者の負担の大きさもさることながら、本人を取巻く周囲の病気に対する理解が不十分であり、高齢者とその家族が地域から孤立しやすい。
対象	圏域内で最も高齢化が進む町会に住む地域住民（高齢者を介護する家族を含む）
地域特性	小松地域は、阪急電車の二つの駅を含むベッドタウンで、大型マンションが次々と建設され、商業施設や学校がある中で、比較的若い世代が住む地域と高齢化が進む地域が混在している。
活動目標	包括ランチの周知を行ないながら、認知症についての正しい理解を広める中で、周囲の気づきが相談につながり早期の適切な支援へと結びつくこと。
活動内容 (具体的取組み)	<p>1. 3年前から北部地域包括支援センターとともに定期的に継続している勉強会の開催と役員との意見交換。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7/3...認知症の知識と予防について(講義、オレンジチームの紹介、住民同士の意見交換)、消費者被害の防止の注意喚起。 ・ 11/13...保健師の役割と感染症の予防(講師：区役所地域担当保健師)。見守り相談室とボランティアについて。 ・ 3/5...認知症の理解と対応(講義とグループワーク)。地域住民による見守り事例報告。住民同士の見守り支援の組織化へ向けて。 <p>2. 住民に向けたアンケート調査の実施と分析、住民への報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「周囲に気になる方がいる場合に相談しようと思うか?... (A)」「自分が認知症でそのことを自覚していないと仮定したときに何らかの相談をしてほしいか?... (B)」などの項目を含むアンケートの実施。その後、協力いただいた住民(役員)に対して報告を行なう。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	住民対象の勉強会では、延べ 74 名の住民参加があった。包括・ランチだけでなく、認知症強化型包括、オレンジチーム、見守り相談室、ボランティアなどの周知も行なった。またアンケートでは 121 世帯 191 人からの回答があり、上記(A)(B)の設問からは何らかの相談を希望する声が多く寄せられた。それらの数字やデータを活用して、住民の気づきを相談に結びつけて認知症高齢者を早期に適切な支援へつなげるようなネットワーク構築のきっかけを得られた。
今後の課題	認知症に対する理解は徐々に広がっている反面、周囲の意識や気づき、対応の格差から必ずしも適切な支援体制の形成に至っていないと感じる。認知症高齢者とその家族が住みやすい環境を整備するためには、周囲の見守りや気づきが相談に結びついて適切な支援につながる流れがうまく機能しているかが重要である。そのために今後も包括とともに地域住民への働きかけを継続していく必要がある。
区地域包括支援センター運営協議会開催日(平成30年7月11日)	
専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性(拡張性) 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント(区地域包括支援センター運営協議会からの意見)	住民の気づきから相談に結びつけるよう、認知症の勉強会を包括やオレンジチームと協働で実施している。それらが継続した取り組みとなっていることから成果の充実が認められ、今後も包括とともに地域住民への働きかけを継続していくことを期待する。

平成 29 年度 大池地域 総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 30 年 6 月 22 日

活動テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々と協力し、認知症になっても住みやすい街づくりを目指す。 ・ランチの周知活動と相談しやすい環境作り。
地域ケア会議から 見えてきた課題	障がいや支援が必要な子供と暮らしている高齢者が増えているが、個人情報の問題や、閉鎖的に暮らしている環境などにより、高齢者に支援が必要となった時に発見する事が困難となっている。地域住民と情報を共有しながら早期発見に向けての協力が必要である。
対象	地域在住の高齢者、地域役員、関係機関の方々。
地域特性	中川・御幸森の圏域共に外国籍の方が多い地域であり、古くからの木造住宅が多く、高層マンションが少ない、高齢化の進んでいる地域である。
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や社会資源を活用し、認知症の方々を支援していく。 ・町会未加入の方も含め、ランチの周知活動を行い、相談しやすい環境作りを目指す。
活動内容 (具体的取組み)	<ul style="list-style-type: none"> ・中川オレンジカフェ(認知症カフェ)を開催。 毎月第3金曜日に(特養)レインボー今里の共催を得て、1階のカフェスペースにて認知症予防体操や、折り紙、小物作り等を行い、認知症の方と地域住民が触れ合う場所を提供。相談ごとを聞いたり、近所の心配な方の情報を提供できる場所作りを行っている。 2月にはやすらぎ苑・レインボー今里のスタッフと協力し、認知症サポーター養成講座と合同開催する事ができた。 ・鶴橋地域包括と共催し、5月より、奇数月の第2金曜日に中川老人憩いの家の1階にて出張相談会を開催。近くに行きなれた場所に出張する事により、相談しやすい環境作りに努めた。 ・包括・地域役員と協力し、家族介護支援教室を開催し、体力測定や認知症の方のドキュメンタリー映画の上映会を行って、健康や認知症に対する関心を深め、各地域の教室や集まりに参加し、ランチの周知活動を行った。 ・毎年恒例になった夏の熱中症予防・見守り訪問を実施し、各町会役員の方々や社協と協力して独居高齢者を中心に1件ずつ自宅を訪問、熱中症予防啓発を行うと共に、相談できる連絡先のチラシを配布しながら、支援が必要な世帯の実態把握に努めた。
成果 (根拠となる資料等があれば 添付すること)	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な行事や集まりに参加する事により、ランチの周知活動が行え、地域役員の方や地域住民の方々から直接相談を頂いたり、電話や来所にて、認知症の方を含め、必要な支援に繋げる事ができた。 ・認知症カフェの参加者の方々が友人や近所の方を連れて来られるようになり、ランチの周知とともに、相談しやすい環境作りが行えた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、町会未加入世帯への周知活動と地域から閉鎖して過ごされている世帯の実態を各町会役員・民生委員の方々と協力し、どのように把握し、支援を行っていくかが課題となる。

区地域包括支援センター運営協議会開催日（H30年7月23日）

専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性(拡張性) 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	積極的に地域に働きかけを行うことにより、ランチの周知となり、相談しやすい環境づくりができる取組みが評価できる。

平成 29 年度 生野東地域 総合相談窓口（ブランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 30 年 7 月 4 日

活動テーマ	地域との連携・協働のためのネットワークの構築、地域の実態把握と相談窓口の周知活動
地域ケア会議から見てきた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独居の認知症高齢者の支援には地域との連携やネットワークの構築が重要である ・ 地域の課題の把握のために地域関係者と連携していくことが必要である。
対象	当総合相談窓口担当圏域内に暮らす高齢者やその家族、地域関係者やボランティア、その他地域住民など
地域特性	生野区の中でも特に高齢化率の高い地域のひとつである。戦火を逃れた地域であり、町並みは古く木造の文化住宅や連棟式住居も多く立ち残るが、その一方で徐々に新しい住宅も立ち並びはじめている。地域の町会活動や地域行事等は比較的盛んであり、隣近所の交流も残っている地域も多い。
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の実態把握を行い、その結果のフィードバックをすることで地域との連携を強化する ・ 住宅の高齢者の関心の高い講座を開催することで相談窓口の周知啓発を行う
活動内容 (具体的取組み)	<p>生野東地域 熱中症予防のための戸別訪問の実施</p> <p>昨年度に引き続き、生野地区運営委員会、生野区地域包括支援センターと当窓口の共催にて、生野東地域の2つの町会の70歳以上の高齢者を対象とし熱中症予防のための戸別訪問を実施した。熱中症の注意啓発に加えて老人憩の家での催しや当窓口の紹介など各種社会資源の情報提供を行った。またエアコンの使用状況や、介護サービスの利用状況、困った時に頼りになる人はいるかなどの聞き取りを行い、地域の高齢者の実態を把握、分析し地域の特性を捉えた。その結果は地域の課題としてまとめ、町会関係者および地域の民生委員にフィードバックを行った。</p> <p>府営南生野住宅まちかど相談会の実施</p> <p>独居ないし共に高齢の夫婦が多く居住する府営南生野住宅において、まちかど相談会を実施した。外部より講師を招き、成年後見制度及び家族信託について講演を行った。</p>
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<p>生野東地域 熱中症予防のための戸別訪問の実施</p> <p>2つの町会、合計197人の高齢者を訪問した。認知症の疑いなど気になる方を発見し、認知症初期集中支援チームへつないだケースがあった。また、介護サービスを必要としておられる方には必要な介護サービスの提案を行うなど各種専門機関と連携し支援を行った。その他、ご近助パワフルサポーター事業や100歳体操など地域行事の紹介や提案を行ったケース、訪問の中で詐欺被害に遭われており、地域包括支援センターを通じて区へ報告を行ったケースもあった。</p> <p>府営南生野住宅まちかど相談会の実施</p> <p>合計35名の参加があった。成年後見制度については高齢者の関心も高く、質問が挙がるなど積極的な相談会となった。また、アンケート結果から相談窓口のさらなる周知の必要性が明らかとなった。</p>
今後の課題	町会長（府営住宅については自治会長）などの地域関係者および民生委員等とより連携を深め、さらなる地域の実態の把握に努める。ニーズの掘り起こしを行い、必要時は迅速・柔軟に連携できるようにしていく。引き続き相談窓口の周知を行う。

区地域包括支援センター運営協議会開催日（H30年 7月 23日）

専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	地域特性を踏まえながら、地域と協働した取組みを積極的に行われており、地域に浸透してきていることがうかがえる。

平成 29 年度 田島 総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 30 年 6 月 29 日

活動テーマ	地域行事に参加していない高齢者への戸別訪問活動
地域ケア会議から 見えてきた課題	行事に参加していない地域高齢者に対して、町会関係者は把握しているが、地域包括支援センターやランチが実態を把握できていない現状がある。地域と連携して実態を把握し、引きこもりの防止や、相談窓口の周知をすることが必要である。
対象	田島小学校圏域の地域高齢者
地域特性	65 歳以上の高齢者数が 1604 人、高齢化率 33.4%であり、独居や高齢者のみの世帯が多く存在している。
活動目標	○地域高齢者への地域包括支援センター、ランチの周知及び、情報提供を行うことで地域行事の参加を促進する。 ○顔の見える関係になることで、早期相談につなげる。 ○地域の実態把握。
活動内容 (具体的取り組み)	○町会関係者（各町会長や女性部長、民生委員）より、独居等で気になる高齢世帯を教えていただき、それをもとにランチと社協で訪問し、周知を行う。 ○訪問の際、ランチの周知や情報提供として、「まずは相談」「名刺」「いくみんお守りキーホルダー」「熱中症予防」「インフルエンザ予防」等の資料の配布を行う。訪問時に不在の場合は、ポストに投函する。 ○10 町会のうち 5 町会（154 軒）の訪問を行った。
成果 (根拠となる資料等があれば 添付すること)	○各町会において、独居等で気になる高齢世帯の把握ができた。 ○地域行事に参加されていない高齢者に対して、地域包括支援センターやランチを周知できた。 ○訪問をすることで、実際の暮らしぶり（自宅の様子等）を知ることができた。 ○比較のお元気な方が多かった、また、すでに介護保険サービス等につながっている人もみられた。 ○各町会関係者からの情報を基に活動を行うことで、各町会長、女性部、民生委員、社協との連携が強化された。
今後の課題	○1 年ではすべての町会の戸別訪問を行う事ができなかった。次年度も継続して実態把握を行う。 ○会えなかった方も多く、1 度の訪問では見えていない課題がある可能性もあるため、訪問した高齢者に関しての情報を整理し、より気になる方や見守り希望者に対して、継続して見守りを行っていくこと。

区地域包括支援センター運営協議会開催日（ H30 年 7 月 23 日 ）

専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	地域の特性をとらえ、地域の関係機関と協働した取組みで、連携強化が図られていることが評価できる。

平成 29 年度 新生野総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 30 年 6 月 28 日

活動テーマ	地域において関心の高い認知症予防や認知症になっても住民で見守れる地域作りについて情報提供を実施し、早期発見・早期対応が出来るように、連絡相談機能を構築する。
地域ケア会議から見てきた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の方への理解を深め支えあえる地域作り。 ・ 独居及び高齢者世帯の認知症早期発見。
対象	地域在住及び高齢者・地域振興会・民生委員・関係機関
地域特性	古くからの文化住宅や長屋がなくなり建売やマンションなどが増え、若い世帯が増えている。マンションなどの居住者は町会に加入しない事が多く地域から見えないことが課題となっている。
活動目標	地域との連携を重視し地域行事・広報誌などで地域包括・ランチ機能を啓発すると共に認知症や権利擁護などの情報提供し早期発見・早期対応を目指し様々な相談に対応する。
活動内容 (具体的取組み)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症カフェ（ゆったりカフェ）の実施 瑞光苑ロビーにて第一土曜日に実施。 出張認知症カフェの実施（瑞光苑まで来れない方対象） ・ 異東小学校での認知症サポーター養成講座の実施 ・ 地域行事への参加（サロン月 1 回・喫茶月 1 回・食事サービス月 2 回など） 地域包括支援センターとランチの啓発、認知症予防などの情報提供実施。 ・ 町会未加入のマンションなどへの認知症予防啓発 広報ランチを制作し認知症予防の情報を発信 ・ 家族介護者教室での「歌って楽しく認知症予防」のセミナーの実施
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症カフェ（ゆったりカフェ）の実施 毎月第一土曜日実施 12 回開催。平均 10 名の参加。 出張認知症カフェ実施 3 月 3 日 12 名参加。 ・ 異東小学校での認知症サポーター養成講座の実施 3 年生(76 名)+保護者(3 名) 6 年生(69 名) 保護者(3 名) 合計 151 名参加 ・ 家族介護者教室での「歌って楽しく認知症予防」28 名参加 ・ マンションへの啓発 4 件のマンションに対し 335 枚配布
今後の課題	<p>認知症への理解を寄り深め早期発見早期対応や地域で見守れる町づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症カフェに参加しにくい方への対応（出張認知症カフェの実施） ・ 町会未加入の地域住民への啓発の継続（ランチ広報紙のポスティング） ・ 市営住宅・郵便局・スーパーなどでの認知症理解のセミナー等の実施
区地域包括支援センター運営協議会開催日（ H30 年 7 月 23 日 ）	
専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	地域における認知症に関する啓発として、小学生やその保護者など若い世代へのアプローチをされているところが評価できる。

平成 29 年度 新巽 総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 30 年 6 月 29 日

活動テーマ	平成 29 年 4 月からの新設ランチで、地域の行事に参加し、新巽ランチの周知活動を行う。地域住民と顔の見える関係づくりの構築
地域ケア会議から見てきた課題	認知症の独居高齢者、特に身寄りが誰もいないために緊急時の対応が遅れる場合がある。地域の民生委員さんに報告が来てもまず、どこに相談をしているかわからないという事実があった。身寄りのない独居の高齢者をどのように支援していけばいいのかが課題。
対象	巽南地域在住の高齢者、その家族、地域住民、民生児童委員、地域関係者やボランティア、各関係機関
地域特性	巽南地域は、平野区と隣接する生野区の最南端の地域です。旧村時代の面影が残る古い町並みが、残る一方、内環状線や地下鉄駅周辺では、マンション、飲食店、コンビニなどの新しい建物が増えています。マンションの住民などは町会に入らずに地域行事などにも参加しない方も多い。また役所などに行くにも不便で赤バスが廃止後交通手段に苦慮している。
活動目標	包括、ランチの周知活動を行い、困りごとを気さくに相談していただける顔の見える関係づくりの構築
活動内容 (具体的取組み)	<ul style="list-style-type: none"> ・奇数月の 15 日に [地域交流スペースいらカフェ] で映画上映会開催 ・巽南食事サービス、巽南サロンへの参加、レクリエーション、自力で参加できない方の送迎活動。包括、ランチからの啓発活動 ・まちかど相談会開催（倉敷珈琲店の軒先をお借りする。）平成 29 年 7 月 24 日 ・家族介護者教室 平成 29 年 7 月 25 日 「脳と体を動かす！認知症予防体操」 平成 29 年 10 月 21 日 「認知症とアロマのお話と心も体も和らぐハンドマッサージ講座」 ・巽包括家族介護者教室お手伝い 平成 30 年 3 月 21 日 ・巽南福祉活動企画委員会（キラキラ会）に参加させていただき、朝市、ふれあい祭りわくわくレクリエーションに参加（ランチの相談コーナーも特設していただきいくみんお守りキーホルダーの登録などをしていただく。 ・在宅認知症ネットワーク会議、ランチ連絡会での事例発表 ・福祉有償車両（巽Dブロック）外出支援のための会議に参加。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に積極的に参加することで新巽ランチの存在を少しでも多くの地域住民に知っていただけようになった。 ・地域交流スペースいらカフェで毎日時間があれば総合相談窓口の席を設けており、気軽に声をかけていただけようになった。 ・認知症の理解についての情報提供ができた。（送迎などを行い新規の認知症高齢者の方も巽南地域の食事サービスに参加出来るようにできた。）
今後の課題	・まだまだ新巽ランチの事を知らない地域住民の方が大勢いらっしゃるので今後も周知活動は必須です。町会に入っていない方たち、地域行事に参加されていない高齢者の掘り起こしも必要です。

区地域包括支援センター運営協議会開催日（ H30 年 7 月 23 日 ）

専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	ランチとして初年度だが、地域に根差した積極的な取組みが出来ていることが評価できる。

平成 29 年度 昭和地域 総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 30 年 6 月 5 日

活動テーマ	顔の見える関係作り（長池地域におけるネットワーク構築に向けて）
地域ケア会議から 見えてきた課題	高齢者世帯や独居高齢者が多く、最近では親子共に課題を抱えたケースや経済的・複合的な課題を抱えたケースが増大している。地域住民が集える場を増やし、相談窓口の周知及び予防的な関わりを広げていく。
対象	長池連合町会内の住民
地域特性	長池地域は南北に長く、北部は新しいマンションが多く、中部は古くからの住宅、南部は単身者向けのマンションや文化住宅が多い。公共交通機関の利便性が確保されておらず、交通弱者問題が発生している。また、地域内でも経済的な格差が多い。
活動目標	「顔の見える関係作り」を目標に、各関係機関との連携の強化、及び既存のネットワークを新しい取り組みと繋げ、幅広く情報収集や発信ができるネットワークを構築していく。
活動内容 (具体的取り組み)	<p>【長池ふくし相談学習会】 計 4 回開催</p> <p>7/25 「特別養護老人ホームについて」 参加者：7 名 相談者：0 名 ・地域内の特養による、特養の入所条件や費用等を質疑応答形式で講演</p> <p>9/21 「負担のないカラダの使い方について学ぼう！」 参加者：28 名 相談者：2 名 ・地域密着型デイサービス（リハビリ型）による、日常動作でできるエクササイズ等</p> <p>11/16 「住宅防火について学ぼう！」 参加者：10 名 相談者：1 名 ・阿倍野消防署による、住宅火災の現状及び対応策について</p> <p>2/15 「口腔ケアについて学ぼう！」 参加者：12 名 相談者：0 名 ・保健福祉センター地域担当保健師による、口腔ケアについての講話</p> <p>【はつらつ健康講座】 計 3 回開催</p> <p>9/1 「バランスよく食べよう！」 参加者：12 名（長池連合会館） ・保健福祉センター栄養士、食生活改善推進員協議会による講義と試食</p> <p>10/19 「イスに座って健康体操」 参加者：15 名（桃ヶ池会館）</p> <p>11/9 「イスに座って健康講座」 参加者：27 名（西田辺会館） ・健康運動指導士による自宅で気軽にできる運動メニューの紹介及び実践等</p> <p>【長池百歳体操】</p> <p>平成 28 年 12 月より長池地域で「百歳体操」が開始し、ランチとしては百歳体操の立ち上げから運営に至るまで全面的にバックアップし、地域住民同士の繋がりや情報収集、情報発信、ランチの周知を行なっている。現在週 2 回開催し、月に 1 回開催前に「ミニ講座」を開催し、保健福祉センター地域担当保健師、地域包括支援センター保健師による健康講話を実施。また月 2 回開催前に「かみかみ百歳体操」も今年 6 月より開催している。昨年度の平均参加者は 17 名と、周知活動や口コミ等で、少しずつだが参加者も増加傾向。</p>
成果 (根拠となる資料等があれば 添付すること)	H27 年度は「相談・学習会」の参加者 34 名、H28 年度は 52 名、H29 年度は 57 名。「はつらつ健康講座」は H27 年度 48 名、H28 年度 48 名、H29 年度 54 名と年々参加者数も増加している。「相談・学習会」「はつらつ健康講座」「長池百歳体操」を通じて、参加者との交流、参加者からの紹介等で、顔の見える関係作りの構築も広がりを持ちつつある。
今後の課題	現在活動している住民と各関係機関との連携で、様々な繋がりを広げ、地域資源との連携をより強固にする。地域での相談・情報共有・情報発信など地域住民へ幅広く関わる事のできる場所を確保し、引き続き顔の見える関係作りの構築を目指す。
区地域包括支援センター運営協議会開催日（H30 年 7 月 25 日）	
専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	地域での活動をランチが全面的にバックアップしてくれている。色々相談しながら開催し、特色のある活動を行っている。 地域福祉コーディネーターとしては、お誘いに力を入れていきたい。

活動テーマ (文の里圏域)	・地域団体と相談機関の協働を増やし、地域における見守り支援体制づくりの活性化へつなげる
地域ケア会議から 見えてきた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自立意識の高い住民が多く、健康の維持や認知症予防への関心も高い一方で、要支援状態になった場合は「施設」や「病院」しかない、と排他的になりがちである。 ・認知症などの要支援者の方に対して、介護保険サービスの利用が軌道にのるまでの間、引きこもりを解消するために地域での催しへの参加を働きかけたが、専門職だけの関わりとなりがちであった。そのため、地域支援者や住民を上手く巻き込み、地域での支え合いや協力体制へ繋いで行く事が不十分だった。 ・認知症を初め精神疾患など、地域に出たくても病気への無理解により、地域から閉ざされている方が潜在していると感じる。 ・上記のような要支援者についての正しい知識や接し方を学ぶ機会が継続的に必要と感じた。
対象	地域住民、地域のコアメンバー（地域支援関係者）
地域特性	有識人が多い地域で、自立心も高いため支援への抵抗が強い。そのため講演会については予防的な取り組みなどへの参加率は高いが、正しい病気の知識や人権啓発などについての参加率が伸びない。
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは地域に高齢者が出向いてもらうことを目標におき、健康体操を中心に、高齢者が日中集える場を積極的に運営、また地域関係者が主催する催しへ積極的に出向けき、お手伝いをする中で、地域住民が安心して集える場の活性化を目指し後方支援を行う。 ・また、認知症や精神疾患などの講演会や地域課題を話し合うような地域ケア会議や小地域ケア会議へ地域支援者に足を運んでもらえるように協力依頼を丁寧に行っていく。
活動内容 (具体的取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 1、「文の里健康体操」の実施 2、「高齢者食事サービス」、「いきいき百歳体操」、「ほっこり庵」、「なにわ元氣塾」など地域の催しへ積極的に足を運び、後方支援を行うと共に、顔の見える相談機関として何気ない会話からも不安や心配が解消されるよう、丁寧に聴き取り、対応を心掛け、早期発見早期解決に向けて取り組み、信頼できる相談窓口となるよう努めたい。 3、地域での活動団体がより活性化していくように、適切な後方支援や情報提供、ボランティアや支援者へのつなぎなどを行っていく。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域へ出向く回数を増やしたことで、訪問した中での相談件数が増加し、また相談経路としてもご本人からの相談件数が増え、全体的な件数としても過去最多となった。 ・高齢者からの相談の中で、介護予防の一環としての日中活動できる場へのニーズに対し、スムーズに情報提供を行い、参加につなげることができた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「文の里健康のつどい」を中心に、地域会館での催しへさまざまな専門職の協力を呼びかけ、更に住民の暮らしに役立つような情報を伝えられるようにし、また専門職の役割についても周知するとともに、支援者間の連携を深めネットワークが広げられるようにする。 ・昨年度同様、精神疾患や認知症に関する正しい知識を学ぶ機会を作る。 ・地域における支援体制はまだ不十分であり、今後もボトムアップしていきけるように各専門機関や地域団体へ協力していく。

区地域包括支援センター運営協議会開催日（H30年7月25日）

専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	まさに地域包括ケアシステム作りの王道と言える活動。各地域にもこの問題（排他的になるなど）はあるが、その対応をされていると言える。

平成 29 年度 新北島地域 総合相談窓口（ブランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 30 年 5 月 30 日

活動テーマ	出前相談
地域ケア会議から 見えてきた課題	集合住宅が占めている地域であり、独居の割合も高い。閉じこもりや地域からの孤立が一番の課題となっている。また複合的な問題を抱えるケースが増加しており、支援者間での情報共有・役割分担といった課題もある。
対象	地域住民
地域特性	新北島地域・平林地域ともに集合住宅が占めている地域であり、相談が上がる地区が集中している。閉じこもりがちな利用者や、地域から孤立し問題が重度化してから相談に上がってくるケースが多い。また地域での活動の場が少なく、新北島地域では会館までの距離や階段の昇降が必要であることから活動への参加が難しい住民も多い。
活動目標	地域に出向き身近な相談窓口としての周知を行う。ネットワーク委員や推進員など地域関係者との情報共有を行う。 地域で閉じこもりがちな住民の活動の場を広げる。
活動内容 (具体的取組み)	新北島地域 場所：新北島南公園福祉会館 日時：第 2 火曜日 13：30～15：00 内容：ふれあい喫茶の場を活用し、地域住民との交流を図りブランチの周知活動を行うとともに、ネットワーク推進員やネットワーク委員と情報共有を行う。 階段を昇降する必要のあることから、参加住民は比較的元気な方が多い。談話しながら小物作りなどにも取り組んでいる。 平林地域 場所：UR 南港前団地 集会所 日時：第 4 火曜日 14：00～15：30 内容：訪問看護ステーション 理学療法士の協力のもと、体操教室を行い参加住民と交流を図っている。ブランチの周知活動とともに、体操教室前後に地域からの相談を受け付け、必要に応じて訪問を実施している。 参加住民は UR 団地や隣の市営住宅の方が多く、地域から相談が入った閉じこもりがちな利用者へ参加を促し、活動の場を広げられるよう支援している。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	地域住民と顔馴染みの関係を築くことで、直接相談してもらえることが増えている。ネットワーク委員や推進員など地域関係者との情報共有の場としても活用でき、同行するケースが増えている。 UR 南港前団地の活動においては、はじめは参加者も少なかったが住民同士の口コミや、相談として上がってきた利用者への声掛けを継続することで、徐々に増加し現在では平均 22 名が参加されている。
今後の課題	新北島地域での活動においては、会館までの距離や階段を昇降する必要があるなどの理由で参加できない住民が多かった。 今年度からは地域住民がよく利用しているスーパーの一角に活動の場を移す。

区地域包括支援センター運営協議会開催日（平成 30 年 7 月 12 日）

専門性等の該当	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 浸透性（拡張性） <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	地域住民対象に継続した取組みが行われている。内容に関しては、PT や訪問看護などの専門家が入った体操教室や、司法書士を招いた法律相談などの工夫もされている。発表の中でも住民が集まる場に活動の場に移すとあり、今後も地域の住民がより参加・相談できるよう工夫して活動していただきたい。

平成 29 年度 矢田東 総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 30 年 7 月 7 日

活動テーマ	地域の身近な相談窓口として認知度をあげる。積極的に地域に出る事で住民と関わる機会を増やし、早期相談に繋がるネットワークを構築する。
地域ケア会議から見てきた課題	認知症、飲酒、精神障がいが原因で近隣トラブルとなっているケースが目立った。支援者が既についているケースもあったが、当人は何ら生活課題、困り事を感じていない、という点が共通している。 トラブルとなる前の早期相談につながっていない、また、高齢福祉以外の支援者との連携をどう行うか、が課題として挙げられる。
対象	地域関係者 地域住民 各専門機関
地域特性	矢田東地域：矢田圏域では町会加入率が最も高い。長年行われている友愛訪問は形を変えながらも継続して行われている。昨年度より開始された地域の予防教室の参加者は徐々に増えており、区内でも最多の参加者となっている。 矢田北地域：集会所が地域の中心にあり、住民が参加しやすい環境にある。そのため予防教室の参加者の平均年齢は、若干高めになっている。
活動目標	地域のつどいへの参加を通して、地域関係者や地域住民とつながる。 つながった方々と定期的な意見・情報の交換を行う。
活動内容 (具体的取組み)	<p>地域活動への参加 介護予防教室やつどい場、ふれあい喫茶等への参加を通して地域との関係性作り。</p> <p>団地自治会との関係強化 定例の自治会幹事会議や団地集会所で開催しているつどいの広場に参加。</p> <p>地域福祉サポーターとの協働 地域からの相談が入った際には、協働して対応できる体制の構築。</p> <p>専門職との連携 区保護課ケースワーカーやケアマネジャーとの情報の共有。 ケースワーカーやケアマネジャーとの勉強会に参加。</p>
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	総合相談による訪問・出張延件数 1226 件（昨年 817 件） 相談実人員 179 人（昨年 146 人）ランチへ直接相談が入るケースも 50 人を超えた。 個別ケースでの地域ケア会議開催においては、戦略的に地域関係者へ参加呼びかけを行い、関わってもらうことで包括・ランチの実際の活動を見てもらうことができた。そこから相談窓口についての情報を地域関係者の間で広めてもらうことにつながった。 相談件数が増加しただけでなく、地域からの相談が増えたことは、周知活動の現れであると思われる。また専門職との連携を強化したことで、相談経路の多様化にもつながった。
今後の課題	早期相談につながるよう地域との関わりの更なる強化を図る。また困り事を解消するためにサービスにつなげるだけでなく、困り事が大きくなるよう「自助」「互助」の取組みの大切さを広められるような関わり方を目指す。そのために周知活動だけでなく地域住民、地域関係者、専門職とのネットワーク作りを行っていく必要がある。
区地域包括支援センター運営協議会開催日（平成 30 年 7 月 25 日）	
専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	この地域は町会加入率も高く、地域役員が中心となっていていろいろな行事や取組みがあり、活発な地域と認識している。その地域で、いろいろなところへ顔を出し、相談にも繋がっている。大変とは思いますがよく活動してくれていると思う。地域包括支援センター・ランチは頼りになる存在。当区に住んで良かったと思うために、今後も地域活動に協力してほしい。

活動テーマ	地域の身近な相談窓口として、地域住民や関係者にランチを周知し、早期相談や見守りのネットワークをつくる。
地域ケア会議から見てきた課題	独居・認知症高齢者（支援拒否など）で不衛生な環境や金銭管理が困難などの問題が重複し、支援が長期化しているケースがみられている。タイミングを逃さない支援が必要。
対象	白鷺地域（今川・育和）の住民、町会関係者、医療・介護関係者などの各専門機関
地域特性	ボランティア活動が盛んで、支援について地域で勉強会をされるなど意識が高く週2回の配食サービスなど見守り体制がある。 古くからの住宅地で、長年住んでいる方は地域とのつながりは強いことが多いが、町会未加入のマンション・アパートなどつながりが希薄な高齢者もおられる。
活動目標	地域での行事（集いの場）に積極的に出向き、総合相談窓口を周知する。 必要時にスムーズな対応ができるよう、地域での協力体制をつくる。
活動内容 （具体的取り組み）	「めぐむ・くれない」通信の配布 年2回毎回10万部発行（新聞折り込みや地域会館、区内の介護事業所等への配布）および法人のホームページをリニューアルし、ランチ活動について近隣住民へ周知。 地域行事（ふれあい喫茶、食事会、なにわ元気塾、百歳体操など）の住民が集う場所へ出向き、チラシを中心に参加者およびスタッフ（町会関係者、区社協、警察、介護事業者）へ周知を行い、併せて生活情報（消費者被害や詐欺の注意喚起）を伝える。 区包括と協働で「地域福祉サポーターとの情報共有会議」を毎月開催し、支援が必要な高齢者の情報や地域情報を毎回更新しながら共有。 今川地域は、「家族介護支援事業」にて運動教室およびリフレッシュ目的の外出を行う。 育和地域は、地域の企業やキッズ対象の認知症サポーター養成講座を行い、相談機関として包括・ランチを紹介。 また、新たな集いの場づくりで地域住民主体の「百歳体操」および介護事業者と共催で「ふれあい喫茶」のサポートを実施し、相談機会を増やす。
成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	定例開催している地域福祉サポーターとの情報共有会議により、見守りなど地域の支援が必要な高齢者情報を最新状況で確認し、在宅生活継続につながっている。 地域との関係づくりについては、行事の参加（前年比78回 121回）1.5倍の活動の際、町会関係者と積極的に情報交換を継続し、相談件数（603件 719件）の増加につながった。 H29.9月からの新たな「集いの場」づくりに於いては、地域住民と介護事業者（グループホーム、訪問看護、通所介護）とのつながりや協力体制もできた。
今後の課題	新たな集いの場および関係者へのネットワークづくりが行えるよう地域へ出向く活動を継続し、相談の際には、見守り相談室やオレンジチームなど専門職との連携も行う。 特に医療関係者との関係づくりにつとめる。

区地域包括支援センター運営協議会開催日（平成 30 年 7 月 25 日）

専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	積極的に地域の行事等に参加することで、顔の見える関係づくりをしている。今後は町会未加入者や転入者へのアプローチが課題であり、期待したい。

平成 29 年度 矢田西 総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 30 年 6 月 30 日

活動テーマ	地域の行事や会に参画し、矢田西地域の住民へランチを知っていただくとともに、相談しやすい関係作りを目指す。
地域ケア会議から見えてきた課題	相談窓口の周知拡大と問題早期発見の関係・場作りが必要。特に団地には町会に加入していない方が多く、窓口としても関わるのが少ないため現状把握ができていない。
対象	矢田西全域の地域住民
地域特性	町会や女性部、自治会、民生委員などの見守りや声の掛け合いが多く、行事も盛んである。縦長の地域形態であるため、1丁目の方が3丁目のコミュニティセンターに行くことが難しくなり、集まりにも参加しづらい。
活動目標	既存のつどいの場に継続して参加することはもちろん、平成 28 年度より新たに開始したりフレッシュのつどいを通して、団地の方との顔の見える関係づくりに努めるとともに、住民同士の横のつながりを広げていく。 新たにランチの広報紙を作成して活用することで、ランチに直接相談が入るルートを増やしていく。
活動内容 (具体的取り組み)	「リフレッシュのつどい」の開催 毎月第 2 木曜日に体操や脳トレなど行っている。自治会主催として協働していただき、団地内での関係作りや見守り・閉じこもり予防などを目的としている。 「家族介護支援教室」の開催 毎月第 4 土曜日にせりょうに地域向けに様々なテーマで講義型・参加型の講座を開催。平均 22 名のご参加あり、その場ではランチの広報も毎月行っている。 その他「介護予防体操」「健康づくり体操」「食事サービス」等地域行事への参加幅広く顔と名前を覚えていただけるよう地域に出て交流を深めている。 相談窓口について、新たな広報紙の作成 地域の相談窓口として連携を強めるため、地域福祉サポーターと協同にて作成。12 月には地域の回覧板、掲示板にて活用し、食事サービス等でも随時ツールとして活用している。また、地域の食事サービスや区役所、コミュニティセンターにも配布・設置した。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	総合相談案件数 131 件（28 年度 128 件、27 年度 107 件） ランチへの相談件数 40 件（28 年度 26 件、27 年度 17 件） リフレッシュのつどいについて、毎月参加することで顔の見える関係ができてきたとともに、住民同士の繋がりを知り、広めることができた。さらに参加者の声から 30 年度 4 月より月 1 回から月 2 回に増加することになった。 広報紙については、1749 世帯に向けて回覧板を回し、掲示板 30 か所にも掲示させていただいた。しかし、相談件数としては特に反映されなかった。 家族介護支援教室や食事サービスの参加者からは、ちょっとした困りごとも含めて相談していただけるなど、相談窓口としての認識が深まっている。
今後の課題	包括・ランチのことを知っていても相談はされずに地域で抱え込んでいるケースがあることが分かったので、今後より活用しやすい相談窓口として認識していただけるよう働きかける必要がある。 また、地域行事や相談ケースなどでも関わるのがあまりない方については、こちらから積極的に関りや広報を進めていかないと情報が伝わりにくい。そのため、担当圏域内にある店舗や公共機関等も対象として幅広い範囲での広報活動を行う。

区地域包括支援センター運営協議会開催日（平成 30 年 7 月 25 日）

専門性等の該当	地域性	継続性	浸透性（拡張性）	専門性	独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	ランチへの直接の相談件数について、課題が残るようだが、少しずつでも増加していることを評価したい。今後も相談員の若さを活かし、頑張ってもらいたい。 また、来所での相談等に備え、法人の建物内にランチがあることの周知について工夫してほしい。				

平成 29 年度 喜連東総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 30 年 6 月 1 日

活動テーマ	元気な時から顔見知りや声のかけ合える住民間での関係づくり、ネットワークの構築																								
地域ケア会議から見えてきた課題	地域との関わりが希薄な中、認知症が要因となり近隣との関係悪化に至るケースが多々あった。認知症が進行した状態で相談窓口につながる事が多い。																								
対象	喜連東地域高齢者																								
地域特性	喜連東地域は大部分が公営住宅で高齢者率も高く（34.7%で喜連圏域の地域で最も高い：平成 27 年国勢調査）独居世帯の割合も高い。連合町会に未加入の地域住民も増加している。銭湯の廃業、なにわ元気塾の廃止もあり地域の集いの場も減少している。																								
活動目標	地域高齢者の誰もが集える場、住民間での交流を高め顔見知りや声の掛け合える関係づくり、安心して暮らせる地域づくりを目指す。																								
活動内容 (具体的取組み)	<p>ランチ主催で法人・包括と協働して「いきいきサロン」開催。 毎月第 4 土曜日 14 時～16 時 専門家からの講座・情報提供・包括、ランチ周知を中心に体操・踊り・歌等を実施</p> <p>・H28 年度末アンケートにより、踊りや歌等への希望が多数あり。 フラダンスや健康体操等を取り入れ柔軟に対応した。</p> <table border="0"> <tr> <td>・第 34 回 フラダンス</td> <td>49 人</td> <td>・第 35 回 健康体操</td> <td>50 人</td> </tr> <tr> <td>・第 36 回 脱水について</td> <td>50 人</td> <td>・第 37 回 便利グッズ</td> <td>54 人</td> </tr> <tr> <td>・第 38 回 脳トレゲーム</td> <td>36 人</td> <td>・第 39 回 交通安全教室</td> <td>38 人</td> </tr> <tr> <td>・第 40 回 防災アタック</td> <td>32 人</td> <td>・第 41 回 地域でその人らしく暮らす</td> <td>52 人</td> </tr> <tr> <td>・第 42 回 忘年会</td> <td>52 人</td> <td>・第 43 回 チーム対抗ゲーム</td> <td>52 人</td> </tr> <tr> <td>・第 44 回 終活</td> <td>50 人</td> <td>・第 45 回 聞こえの講座</td> <td>46 人</td> </tr> </table>	・第 34 回 フラダンス	49 人	・第 35 回 健康体操	50 人	・第 36 回 脱水について	50 人	・第 37 回 便利グッズ	54 人	・第 38 回 脳トレゲーム	36 人	・第 39 回 交通安全教室	38 人	・第 40 回 防災アタック	32 人	・第 41 回 地域でその人らしく暮らす	52 人	・第 42 回 忘年会	52 人	・第 43 回 チーム対抗ゲーム	52 人	・第 44 回 終活	50 人	・第 45 回 聞こえの講座	46 人
・第 34 回 フラダンス	49 人	・第 35 回 健康体操	50 人																						
・第 36 回 脱水について	50 人	・第 37 回 便利グッズ	54 人																						
・第 38 回 脳トレゲーム	36 人	・第 39 回 交通安全教室	38 人																						
・第 40 回 防災アタック	32 人	・第 41 回 地域でその人らしく暮らす	52 人																						
・第 42 回 忘年会	52 人	・第 43 回 チーム対抗ゲーム	52 人																						
・第 44 回 終活	50 人	・第 45 回 聞こえの講座	46 人																						
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<p>H29 年度の年間延べ人数 561 人 H28 年度より 47 人の増加がありました。 住民間で誘い合って閉じこもりの方の参加も頂けた。一人で参加された方もチーム対抗等で顔見知りができ声を掛け合われる事も見受けられる。区民向け講演会、サポーター研修の情報提供、参加呼びかけに多数参加頂けて地域住民の啓発にも繋がった。 参加者への毎年のアンケート実施にて包括・ランチ周知について包括周知は前年度 86% 今年度 97% プランチ周知は 85% 86% プランチ周知は低い包括、ランチを知っている方は全員が高齢者相談窓口を知っておられた。</p>																								
今後の課題	地域との関わりが希薄な方にも参加して頂きたく地域福祉コーディネーターと訪問の際に参加頂ける様に声を掛けさせて頂いた。参加は少数だったが今後も訪問継続にて気軽に参加頂き声の掛け合える関係づくりが構築できるようにしていく。																								

区地域包括支援センター運営協議会開催日（ 30 年 7 月 25 日）

専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	高齢化率が高く独居高齢者が多いという地域特性、認知症にかかる課題の解決のための取組みであるが、地域住民のニーズを把握し、教室の目的を明確にすることで、住民同士の交流や顔の見える関係の構築に繋がり、継続した取組みとなると考える。

平成 29 年度 天下茶屋 地域 総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 30 年 5 月 23 日

活動テーマ	「いきいき百歳体操」「ふれあい喫茶」を大切にして、地域の方々と顔の見える関係作りをしていく。
地域ケア会議から 見えてきた課題	単身高齢者で、生活保護受給者のケースが多い。認知症から金銭管理が必要なケースが多い。認知症の早期発見・早期治療が必要。金銭管理に関して、あんしんサポートの活用が難しい状況で、成年後見制度の活用が必要。
対象	認知症の疑いのある高齢者、地域との結びつきが薄いまたは、全くない高齢者の夫婦や単身高齢者
地域特性	地域との交流がなく、単身世帯が多い。文化住宅や築年数が長く、修繕が必要な家屋に住んでいる人が多い。それに伴ってごみ屋敷が増えている傾向にある。ここ最近ではあるが、外国国籍の方が移住している。
活動目標	できるだけ地域の行事に顔を出し、天下茶屋地域ランチの周知に力を入れていく。
活動内容 (具体的取組み)	<p>天下茶屋小学校区において、月 1 回地域住民を対象とした出張相談を行った。 天下茶屋老人憩いの家で開催されている「ふれあい喫茶」にて窓口を設置。困り事や介護保険の申請、いきいき百歳体操の参加の促しを行った。 (実施日) 毎月第二水曜日 12:00~14:00 (場所) 天下茶屋老人憩の家</p> <p>当施設 3 階で「いきいき百歳体操」を実施。地域での困り事、小さな悩みでも相談できるよう参加者との交流を深めていった。 (実施日) 毎月水曜日(ふれあい喫茶実施日を除く) 13:00~13:30 (場所) 天下茶屋地域在宅サービスステーションのぞみ 3 階</p>
成果 (根拠となる資料等があれば 添付すること)	<p>「ふれあい喫茶」「いきいき百歳体操」を通して、訪問中の道中でも声をかけてくれたり、天下茶屋地域の相談窓口としても周囲から認知されるようになってきた。 地域高齢者だけでなく、ネットワーク委員から家族の相談が上がったりもあった。 昨年度に比べて、今年度はケースワーカーからの直接の相談が多いことが影響したのか、338 件相談件数が上がった。 下記参照</p> <p>平成 28 年度：相談件数 1253 件（訪問：885 件・電話：217 件・来所：96 件） 平成 29 年度：相談件数 1591 件（訪問：735 件・電話：761 件・来所：66 件）</p>
今後の課題	東部包括支援センターと連携して、地域とのネットワーク作りを継続していく。単身世帯や生活保護受給者世帯の安否確認、地域特性の理解に努める。これからも地域の行事に参加してネットワーク委員や民生委員との関係作りを努める。また大家とのコンタクトを図り、ごみ屋敷になる前に、対策を講じることが必要である。自分自身の専門職としても、自己研鑽にも努めていく。

区地域包括支援センター運営協議会開催日（平成 30 年 7 月 10 日）

専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	地域の行事を拠点にランチの役割を周知し、総合相談につながっている。生活保護ケースワーカーからの相談も増えており、包括とともに関係機関との連携強化が期待される。潜在的な要支援者への見守りについて、地域のニーズを把握し、地域と協働した取組みにつなげていただきたい。

平成 29 年度 成南地域 総合相談窓口（ブランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 30 年 5 月 22 日

活動テーマ	高齢者の居場所作り。
地域ケア会議から 見えてきた課題	独居高齢者の居場所がない。 認知症（MCI 含む）の方が多い。 独居の男性高齢者の行く場所がない。
対象	千本地域に住む全ての高齢者。
地域特性	独居高齢者が多い。認知症の方が多い。昔ながらの文化住宅が多い。
活動目標	どなたでも参加できるイベント。継続的な参加はもちろんのこと、1 回だけの参加が可能な居場所作り。
活動内容 (具体的取組み)	<p>【いきいき 100 歳体操～千本の 仲間と一緒に 筋力アップ～】 日時：第 1,2,4 月曜日 13:30～14:30 場所：めぐみ 3 階会議室 内容：DVD を観ながらの 100 歳体操 対象：千本地区にお住まいの 65 歳以上の方。 目的：閉じこもり予防、住民の交流の場の提供、介護予防 ・100 歳体操の参加者と NW 委員向けにエルちゃんの見守り講座(消費者セミナー)を行った。(9 月) ・大阪市より委託された外部の理学療法士による体力測定を実施した。(11 月と 2 月)</p> <p>【めぐみ喫茶】 日時：毎月第 3 金曜日 13:00～14:30 場所：めぐみ 3 階会議室 内容：飲み物(100 円)とおやつ(50 円)の提供 対象：全ての高齢者 目的：憩いの場の提供、総合相談窓口の宣伝</p>
成果 (根拠となる資料等があれば 添付すること)	<p>100 歳体操に継続して参加することにより、出不精であった方が行く場所（外出する生活リズム）が出来たことによって、他の場所へも外出するきっかけ作りになったとの声があった。また体力がついたという声もある。</p> <p>今年度は外部の理学療法士の指導があり、より 100 歳体操を続けることが介護予防になることが分かった（きちんと体操をこなせば筋肉痛になる程の筋力アップが可能である。）という声があった。</p> <p>めぐみ喫茶に参加することにより、独居の男性利用者同士の交流が見られた。</p>
今後の課題	今年度の 100 歳体操に関しては参加人数が安定していたこともあり、スペース的には問題はなかった。しかし参加人数に増減がある中、今後はスペース的な問題がでてくる可能性がある。参加人数増加により参加が出来なくなった場合は代替案（老人会主催で行われている 100 歳体操など）の提案ができるようにしていく必要がある。
区地域包括支援センター運営協議会開催日（平成 30 年 7 月 10 日）	
専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けたコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	独居高齢者の居場所がない、軽度認知症の方が多いという地域課題から、閉じこもり予防や高齢者同士の交流を目的とした場を設け、地域の貴重な集いの場となっている。誰もが参加しやすい場として、男性同士の交流が見られるなど、地域に根付いた高齢者の居場所になっている。

平成 29 年度 梅南・橘 地域 総合相談窓口（ブランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 30 年 6 月 6 日

活動テーマ	「つながりづくり」 地域住民とのつながりづくり 地域関係者と専門職とのつながりづくり 地域住民と専門職とのつながりづくり
地域ケア会議から 見えてきた課題	相談窓口を知らずに重度化してしまう。 地域関係者と専門職との連携。 地域とのつながりの希薄の方がいる。
対象	地域住民 ・ 地域関係者 ・ 専門職
地域特性	地域活動が活発でつながりの強い。一方町会未加入など地域とのつながりの希薄の高齢者も少なくない。
活動目標	顔の見える関係作り。いつでも気軽に連絡できる身近な窓口を目指す。 地域支援者と包括・ブランチの連携がスムーズにできるようにする。 地域住民のニーズの把握・地域で出前相談を実施。（実態確認から課題整理） 情報提供、学習の場づくり
活動内容 (具体的取組み)	相談窓口のチラシを作成し、地域行事に積極的に参加し、周知を図る。 食事サービスでは、地域関係者と地域を歩くことから始め、地域行事に参加できない方に相談窓口の周知活動に努めた。 地域行事に積極的に参加し、日常的連携を図れるようにする。（NW 委員会・ワークショップ） 実態把握 (1) 「日常生活ニーズ調査アンケート」を実施。 (10・10 松之宮・10・16 津守 10・26 梅南実施。) (2) 地域行事に不参加の方の実態確認「あなたの事教えてくださいアンケート」 (鶴見橋商店街、はつらつクッキング、介護予防支援契約時実施。) (3) 地域支援者の実態確認。つながりづくりアンケート」 (9・29 梅南、11・10 松之宮地域で実施。) 出前相談窓口を設置と学習会の開催。 (1) 「ワンポイント」情報提供をおこない「学びの場作り」を行う。 (2) 包括と連携し学習会を開催
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	地域行事に参加することで、地域関係者との関係づくりにつながりができた。 ・松之宮地域、梅南地域 NW 委員会と連携し、認知症研修、権利擁護研修介護予防研修会を開催。 ・地域ワークショップに参加し、地域関係者、見守り相談室等関係機関と協働できた。 介護予防担当、包括、地域関係者と連携し、介護予防教室（津守・梅南・松之宮地域）で「日常生活ニーズ調査」アンケートを実施。実態把握と課題を整理した。 長年地域で居住しつながりができている。介護予防に関心が強い事がみえた 包括と連携し、 以外の高齢者（介護予防利用者）等に「あなたの事教えてください」アンケートを実施。地域行事を知らない。知らせてほしい。の課題整理ができた 地域関係者には、「つながりアンケート」を実施。住民間での強いつながり、見守りができているが、相談に繋ぐことのむずかしさを感じている課題が見えた。
今後の課題	地域とのつながりの希薄な高齢者とのつながりづくり。地域行事などの社会資源の情報提供。

区地域包括支援センター運営協議会開催日（平成 30 年 7 月 10 日）

専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	地域のつながりに着目し、アンケートから見えてきた地域の強みと、さらにつながりが必要な部分を整理し、地域関係者と共有の場を設け、ともに協力して地域の見守りや相談につなぐ基盤づくりに取組んだ。活動のねらいや目標が明確で、地域と協働した取組みになっている。

平成 29 年度 あいりん地域 総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 30 年 5 月 15 日

活動テーマ	低年金受給者は、病院へ行くのをためらうことが多く、周りの人が気付く頃には手遅れになっている場合が多い。また支援も複雑化するため、そのような方の早期発見につとめ、生活保護の申請が出来ないホテルや簡易宿泊所の管理人にこちらからアプローチをかけていく。
地域ケア会議から見てきた課題	生活保護受給者とは違い、独居年金生活者は、持病、通院歴、生活歴、家族関係等、本人しかわからない場合が多い。本人が認知症になっていた場合、その人の事を誰もわかるすべもなく支援者が 1 つずつ対応していかなければならない為、非常に時間がかかる。
対象	あいりん地域の低価格ホテルや簡易宿泊所
地域特性	あいりん地域は、単身男性高齢者の生活保護受給者や、低年金受給者が多い。その住まいは簡易宿泊所転用型が多く、管理や支援、住環境が整っていない。また家族とのつながりや地域での人間関係は希薄で、アルコールやギャンブルに依存し、孤独な生活を送る人が多い。
活動目標	手遅れになる前に、管理人、病院、区役所などから連絡がくるよう日頃の関係づくりに力をいれていく。
活動内容 (具体的取り組み)	あいりん地区にある、生活保護申請の出来ないホテルや簡易宿泊所で、かつフロントに人が居る宿泊所に絞って、ランチのポスターやチラシを配布した。 1 階やエレベーターの中など、目に付きやすい場所に貼らしてもらい、スタッフはもちろん本人からも相談をしてもらえるように工夫をした。 訪問した際は、スタッフから年金の方が何人位住んでいるか、介護ヘルパーの訪問は可能か等、聞き取り調査もさせてもらった。 また宿泊所のみならず、近隣の町医者や、NPO 団体、宗教団体、喫茶店などあいりん地域の住民が、集まる所にも、ランチのチラシや通信を配りに行った。 毎月定期的に配布する、通信も 1 ヶ月に 500 部以上になり、ランチの知名度は確実に上がってきている。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	どのホテルや簡易宿泊所にも、長年住み続けている高齢者がたくさんいるため、大家と信頼関係を築けると、次から次へと相談が続いた。またどこに相談したらよいか、わからなかったと感謝してくれる方もたくさんいた。 そのため昨年度は、低年金受給者の相談が格段に増え、病院、不動産屋、見守り相談室、介護事業所、オレンジチームなど、新しい関係機関とも連携をとれるようになった。
今後の課題	あいりん地区の 1 日千円程度のホテルは、住民票を置くことは出来るが、生活保護申請不可、ヘルパーの来室も不可の所が多く、支援をするにあたって引っ越しを余儀なくされるケースも多い。大家としてはランチが介入してくれるのは助かるが、何人もの住民の引っ越しが続くと、家賃収益にも関わってくる。結局、大家からはどうしてもなくなってからの相談が多くなってしまい、早期発見の為に近隣の医療機関や他の関係機関からの連絡が大切になってくる。30 年度はより一層他職種と連携を図れるよう努力していきたい。
区地域包括支援センター運営協議会開催日（平成 30 年 7 月 10 日）	
専門性等の該当	地域性 継続性 浸透性（拡張性） 専門性 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	低年金で生活する単身高齢者の重複する生活課題が複雑化する前に総合相談につながるよう、簡易宿泊所等にランチのポスターやチラシを配布し、家主やフロント従事者との顔の見える関係づくりに取り組んだ。結果として、相談件数の増加だけでなく、地域情報の把握や新たな関係機関との連携につながっている。